

# プログラミング教室

県内小学生50人学ぶ



授業動画はこちらから

「プログラミングってめっちゃ面白い」。くまTOMOは12日、びふれす熊日会館（熊本市中心区）の「びふれすイノベーションスタジオ」で、プログラミング教室を開きました。参加した小学生は、熊本高専熊本キャンパス（合志市）の先生や学生たちの指導で、ネコのキャラクターを動かすプログラムを作りました。（藤山裕作）



参加者は熊本高専の学生（左）のアドバイスを受けながら、プログラミングを学んだ

教室はオンライン配信され、4年生から6年生の約50人がスタジオや自宅で楽しく学びました。参加者は、世界中の子どもたちが使っているプログラミング言語「スクラッチ」で、ネコを動かす課題にチャレンジ。タブレット端末などを使って「10歩動かす」などの命令ブロックを組み重ねました。

「上から下に並べて順番に実行するのが基本です」。熊本高専の藤井慶先生（44）がポイントを伝授すると、ネコが画面上を走り回ったり、鬼ごっこをしたりするプログラムを次々に仕上げました。

「よしてきたー」。気の合った声が上がったのは最後の課題は「リングを探りゲーム」。ネコを上手に動かしてリングに触れたらクリア、ネコが画面の端に触れたらゲームオーバーです。命令ブロックの数が増えて難易度がアップしたため、「並べる順番が難しい」といった声に参加者から上がりましたが、みんなはあきらめずに取り組ん

でいました。指導した熊本高専5年の上土井茜さん（19）は「小学生の自由な発想に驚きました」。小山善文先生（62）は「プログラミングを学び、マスターすると可能性が広がります。今後もチャレンジしてください」と、最後に参加者にメッセージを送りました。

# めっちゃ面白い！

おも しろ



タブレット端末などを使いながら、プログラム作りに取り組む参加者。12日、熊本市中心区

## 国語の作文に似てるよ

熊本高専・藤井慶先生 上達のヒント

小学校の授業で必修化されているプログラミングをどう学べばいいのでしょうか。熊本高専熊本キャンパスの藤井慶先生（44）に、そのヒントを教えてくださいました。

「プログラミングって、どんなもの？」

プログラミングの内容は教科の中だけでなく、複数の教科につながっています。特に最も関係が深いのは国語。命令ブロックを組み合わせる作業は、自分の考えをまとめる作文と似ています。論理的な思考や問題解決能力を育てるのに役立ちます。

「難しいと感じる子どももいるのでは？」

手軽に学ぶ道は無いかもしれませんが、漢字を何度も書いて覚えるように、プログラミングも反復が必要。最初はうまくいかないかもしれませんが、あきらめずに続けられれば、複雑なプログラムでもできるように挑みましょう。



プログラミングのポイントについて、分かりやすく説明する熊本高専の藤井慶先生

熊本高専の先生たちの協力で、くまTOMOで連載中の「ふれすけとプログラミング」を来週27日付からリニューアルします。プログラミング言語「スクラッチ」を使って、紙面とタブレットなどの端末を連動させる、新たな仕組みが加わります。

## 「ふれすけとプログラミングDX」来週からスタート

「ふれすけとプログラミングDX」。DXは豪華さを意味する「デラックス」と、最新のデジタル技術を有効活用した変革を示す「デジタルトランスフォーメーション」の両方の意味です。熊本高専の先生たちが作った問題を考えながら、実際にふれすけを動かすプログラムを学びましょう。